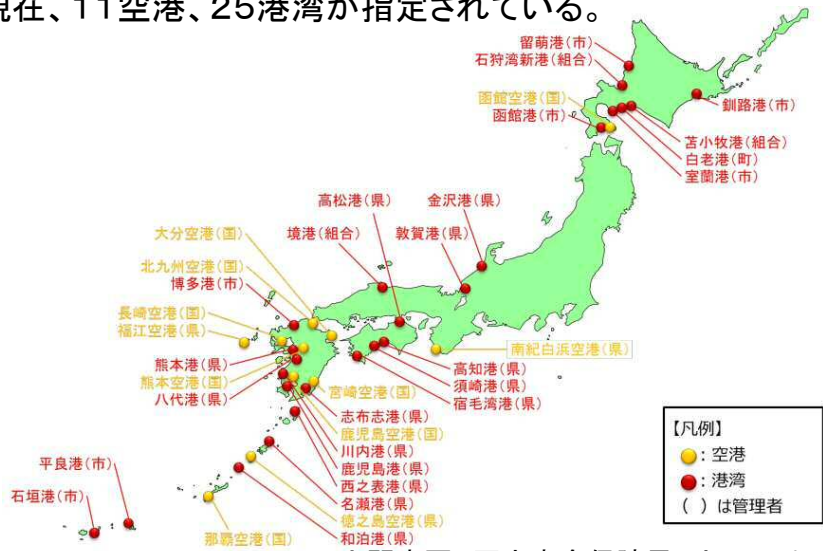


1 特定利用空港・港湾の概要

- 国は、総合的な防衛体制の強化の一環として、自衛隊・海上保安庁が平素において必要に応じ空港・港湾を円滑に利用できるよう、インフラ管理者との間で「円滑な利用に関する枠組み」を設け、これらを「特定利用空港・港湾」としている。
- 「特定利用空港・港湾」については、民生利用を主としながら、大規模災害などの緊急時の際には、国民保護の観点から、自衛隊や海上保安庁の艦船や航空機が柔軟かつ迅速に空港・港湾を利用できるように、平素から関係省庁とインフラ管理者において、連絡・調整体制の構築、強化を図るものとされている。

2 全国の指定状況(令和7年4月1日時点)

- 現在、11空港、25港湾が指定されている。



内閣官房 国家安全保障局 ホームページより

3 国からの説明状況

<仙台空港>

- 昨年10月28日、国から、県及び仙台空港が立地する名取市、岩沼市に対し、特定利用空港として指定したい旨の説明があり、両市から説明会の開催を要請。
- 今年7月8日、名取市、岩沼市に対し、国による説明会が開催され、本取組の説明があった。

<仙台塩釜港>

- 今年7月9日、国から、県及び関係市町に対し、仙台塩釜港を特定利用港湾として指定したい旨の説明があった。
 - ・ 出席者: 県、仙台市、石巻市、塩竈市、多賀城市、東松島市、松島町、七ヶ浜町

※質疑応答の主な内容は、別添1のとおり。

4 今後の対応方針

- 国管理施設である仙台空港については、特定利用空港の指定は国の判断によるものとなるが、地元からの理解が重要と考えていることから、地域に不安や懸念が生じることがないように、国に対して丁寧な対応を求めている。
- 県管理である仙台塩釜港については、今後、港湾利用者や関係市町と意見交換しながら、対応を検討していく。

＜仙台空港＞（7月8日 名取市、岩沼市対象）

質疑応答の概要（丸数字が質問等の内容）

① 仙台空港が選定された理由は。

（答）部隊所在地の近傍に所在するなど、空港の持つ特性に着目し選定している。

② 平素から訓練で使用することで攻撃目標とされるのではないか。仙台空港の指定はやめてほしい。

（答）この取組で新たに自衛隊の基地等を設置するものではなく、訓練も年に数回にとどまるものであり、特定利用空港の指定により軍事目標となるとは考えていない。

③ 訓練に使用されることで、騒音が酷くなるのではないか。

（答）現時点で、これまでより大きな騒音が発生するような機材を使う予定はない。仮に、騒音が大きくなる訓練を行う場合には、事前に自治体とよく相談するなど、地域への影響が最小限になるように配慮する。

④ 周辺国の危機が高まっていることもあり、日頃からしっかり訓練してもらい、我々を守っていただきたい（意見）

＜仙台塩釜港＞（7月9日 県、関係7市町対象）

質疑応答の概要（丸数字が質問等の内容）

① 仙台塩釜港が選定された理由は。

（答）部隊所在地の近傍であるなど、港湾の立地特性や整備状況を踏まえて判断した。

② 特定利用港湾の指定を受けたことにより、米軍の使用実績が増えた事例はあるか。

（答）この枠組みにおける米軍の使用は一切ない。

③ 指定による具体的なメリットは何か。

（答）自衛隊、海上保安庁と港湾管理者との連携が良くなることで、災害対応への効果的な対応が可能となる。また、港湾の施設整備事業において、民生利用のニーズのほか、安全保障上のニーズが加わることで、より事業が促進され易くなる。

④ 訓練の具体的な内容はどのようなものか。

（答）現時点で港湾を使った具体的な訓練計画はないが、燃料補給や部隊輸送などで自衛隊の船が港を使うイメージ。